

見る初秋の大学構内は明るく輝いていた。プログラムも、学術発表は無論のこと、機器展示と作品展示を含め、内容もレベルが高く、ゆっくりと堪能できる企画で感嘆。特別講演では、「バーチャル」は、「即」であるという説に大いに共感し、「バーチャルリアリティ」を「即現実」と訳してはという案まで飛び出すに至る。用語委員会には、大変重要な宿題が課せられたと言えよう。懇親会では、高橋先生の舞妓さん、そのVR的考察に、またまた驚嘆。ということで、驚きの連続のなかに真理の見え隠れする、誠に素晴らしい含蓄のある大会であった。

ところで次回大会は、実に第10回にあたる。月日の速さには、ただただ驚かされる。学会の設立が、1996年5月27日。その年の10月に、第1回の大会を行ったのを皮切りに、爾来、名古屋、札幌、奈良、つくば、長崎、東京、岐阜、京都とまわって来年が10回目の節目となる。いわば、学会、この10年のまとめの時期を迎えたといえる。そこで、「VR:これまでの10年、これからの10年」というテーマを掲げて、この節目の大会を企画したいと考えている。

2005年の9月27日(火)から29日(木)、東京大学の安田講堂と工学部で開催する。30日(金)には、日本VR医学会を共催する形で第9回から始まった連携も継続する。懇親会企画は、頭を悩ませているものの一つであるが、第10回にふさわしい企画とするべく、川上、稲見の両幹事はじめ実行委員会で鋭意考慮中であるので是非期待していただきたい。バーチャルは、言うまでも無く、現実のエッセンスである。自然を注意深く観察し、エッセンスを見出し、表出する人間の英知を、技術、芸術、学術の立場から展開して行きたいと考えている。会員の英知を結集した大会にすべく、皆様の絶大なご支援、ご協力を御願ひする次第である。

## ◆おわりに (編集後記)

### 山澤一誠

広報担当 (奈良先端科学技術大学院大学)

各委員からの報告原稿がほぼ集まり、この原稿をまとめています。これが広報としての最後の仕事です。皆さんからの報告どおり、今回の実行委員のチームワークはよく、無事に大会が終わってほっとしています。来年は東京での開催です。また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。